

審判講習会 参加報告書

平成 30 年 4 月 1 6 日

報告者 山本 美紀 印

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	第 46 回日本車いすバスケットボール選手権大会 西日本第 2 次予選会
参加者 (報告者)	山本 美紀 (所属カテゴリー) 中予ミニ連盟
期 日	平成 30 年 4 月 7 日 (土) から 平成 30 年 4 月 8 日 (日)
会 場	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター
参加者	日本車いすバスケットボール連盟所属審判員約 30 名
報告① 1 回戦	■ゲ ー ム 日時 4 月 7 日 (土) 11 時 30 分～ 広島 Rise 対 神戸 STORKS ■割当 主審 白石 義人 氏 (愛媛) 副審 1 三藤 康博 氏 (長崎) 副審 2 山本 美紀 (愛媛) ■プレ・ゲーム・カンファレンス 主審：白石さんより、以下のことをクルーの確認事項として話をしていただいた。 ・ 3 P O メカニクス、3 人の協力の確認。 ・ プライマリーの確認、トップボールボールポジションでクローズダウンへ行き、展開の確認、リードの動きでローテーション。アイコンタクトで情報共有。時限の終わりのタイマー管理。 ・ フェイクファウルの確認。プレイの状況を把握し、ファールなのか、接触もなくフェイクなのかを見極める。 ・ オールコートでのプレスや、バックピックでトレイルがバックコートに残っていた場合、センターとリードで協力してボクシングインする。 ・ ラインバイオレーションが起こったときの対処と情報共有。 ・ 両チームの特性、キーマンについての情報共有。 ■反省と次への課題 両チームでチェアスキルの差があったため、ゲームとしては点差がついた結果となったが、勝者の神戸のプレイが全て正当であったか。敗者の広島の不利益になっていたものもあったのではないかと、ということがゲーム後のミーティングで反省の話題となった。接触はあるが、接触の影響がない、もしくは、影響が少ないものや、その後にプレイが継続してできるものもファールして取り上げてしまった。また、ファールとして取り上げた中で、パラレルかコンバージョンかの見極めが十分できていなかったことなど、自分の未熟さを感じた。

報告② 交流戦	■ゲ ー ム 日時 4月8日（日）13時30分～トスアップ 太陽の家スパーズ（九州） 対 神戸 STORKS ■割当 主審 祖父江 達也 氏（徳島） 副審1 松雪 宏昭 氏（福岡） 副審2 山本 美紀 （愛媛） ■プレ・ゲーム・カンファレンス 主審：祖父江さんより、以下のことをクルーの確認事項として話をしていただいた。 ・3POメカニクスと3人の協力の確認、ローテーション、プライマリーの確認、時限の終わりのタイマー管理 ・オールコート時の対応 オールコートでのプレスやバックピックでは、孤立するマッチアップができるので、プレイ3人のレフリーが分断されてしまうケースが出てくる。その時は、メカニクス通りでなく、プレスが起こっている箇所を補えるようローテーションを行う。 ・交流戦ということで、勝ち上がりの試合に比べて選手は緊迫した試合にはならないと思い割れるが、その中で正しく見極めて判定していく。 ■反省と次への課題 前半、プレカンで話していたオールコートでのプレスが起こり、センターライン付近で、自分がセンターでプレスにかかったプレイを捉えていたため、バックコートに下がれない状況が起こった。トレイルが状況を察知して、リードにローテーションするよう指示を出したが、リードが状況の把握ができておらず、トレイルの指示も分からないままプレイが続いてしまった。自分のエリアだけ見るのではなく、常に全体のプレイの流れと審判のポジション取りの把握をしておくことの大切さを反省し合った。 センターライン付近（フロントコート）での接触のファールを取り上げた。ファールを取り上げたのはよかった。しかし、その時のショットクロックが15秒で、レポート後ショットクロックが15秒のままスローインになっていた。ファールが起こったときにショットクロックが流れたのか、8秒成立だったのか、その見極めとショットクロックの処置を適切にする必要があった。
所感	本年度から新しい体制で始まった日本選手権大会の西日本第2次ラウンドという大きな大会でコートに立てたということに感謝しています。西日本各地から集まった審判の方々と交流し、様々な情報交換ができたことや、親睦を深めることできたことは、とても貴重な経験でした。 大会では、試合を通して、プレイを理解して状況を正しく捉えることや、予測をしてよりよい位置とアングルでプレイを捉え続け、ゲームにマッチした判定をすることの大切さを改めて感じました。また、プレイをしっかりと見極めてファールを取り上げていく上で、自分の力量不足を強く感じました。今大会を通して、自分の足りないところや、改善すべきところなど多くの課題を確認しました。この貴重な経験を糧として、今後、課題に対して真摯に向き合い、審判としての資質向上に努めていきたいと思います。ありがとうございました。

審判講習会 参加報告書

平成 30 年 4 月 10 日

報告者 川村 貴昭 印

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	第 46 回日本車いすバスケットボール選手権大会 西日本第 2 次予選会
参加者 (報告者)	川村 貴昭 (所属カテゴリー) 社会人連盟
期 日	平成 30 年 4 月 7 日 (土) から 平成 30 年 4 月 8 日 (日)
会 場	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター
参加者	日本車いすバスケットボール連盟所属審判員約 30 名
報告① 1 回戦	■ゲ ー ム 日時 4 月 7 日 (土) 11 時 30 分～トスアップ LAKE SHIGA 対 岐阜 SHINE ■割当 主審 川村 貴昭 (愛媛) 副審 1 初瀬まゆこ 氏 (鹿児島) 副審 2 光森 久敬 氏 (福井) ■プレ・ゲーム・カンファレンス クルー・チーフとして準備・進行を進めながら、意見を出し合いながら確認した。 以下の 3 点を確認する前に、現行の競技規則の変化について共有した。 ・フェイクファウルの追加 (条文) JBA のプレー・コーリング・ガイドラインにもある「フェイク」の概念が車いすバスケットにおいても条文として掲載。車いすバスケットの「フェイク」とはどのようなものにあたるのかをしっかりと挑戦するとともに、まずはイリーガルなものをシンプルに判定をしていくことを追求する旨確認した。 ・UF のクライテリアの追加への対応と適用について 1. メカニクスについて ・L、C、T のプライマリエリア・アングル、ベーシックローテーションの確認 ・メカニクス通りにいかないプレイへの 3 人の協力について (ビッグローテーション、スーパーローテーションについての意思疎通) ・2or3、OOB、タイマー・クロックの確認 (正しい情報を与えていくこと) ・コートプレゼンスへのトライ (Verbal support) 2. 両チームの特性、キーマンについて 3. 特有のプレイについて ・リフティング、ラインバイオレーション、転倒、アップスクリーンプレイへの対応 ■ポスト・ゲーム (主任) 全体的に 3 人で協力することができ、クロスゲームをスムーズに終わらせることができたのがよかった。特に後半はじまってるゲームコントロールを意識したコールが印象的で良かった。一

	方で、3人のバランス、水準を考えてみると、もう少し3人の協力を考えたとき、よりよかったのではないかと。これからセカンダリの役割を更に追求してほしい。
報告① 決勝戦	■ゲーム 日時 4月8日（日）15時30分～トスアップ ワールドBBC（東海） 対 福岡 breez ■割当 主審 増竹 昇 氏（広島） 副審1 今村 和成 氏（兵庫） 副審2 川村 貴昭（愛媛） ■プレ・ゲーム・カンファレンス ・オールコート時の対応 特に、バックピックで孤立するマッチアップができるので、プレイの特性上どうしても3人のレフリーが分断されてしまうケースが出てくる。その時こそ、メカニクス通りでなく、ビッグローテーション、スーパーローテーションを臨機応変に用いることをすり合わせた。 ・接触の原理の再確認 パラレル、コンヴァージング、さらに、パラレルからのコンヴァージングなど、プレイを正しく把握していくことを確認した。 ・スクリーンプレイについて オフェンスプレイヤーが、「スクリーナー」なのかどうかで、適用する接触の原理が変わってくる。スクリーナーである場合、①パス（path）をカバー、②距離と時間の確保、③ステーションナリーの3つの要件を強く意識する。 ・交替の手続き、クロック関係など BASIC を徹底 ■ポスト・ゲーム（主任） 試合の序盤でのコールが、相手のプライマリでから始まったプレイであったことが意識できていたかどうか、それを試合中に修正できたかどうかを振り返ってほしい。あとは、Cのプライマリで判定したものの中に、ポジショニングのレベルをもう少しダウンすれば正しい判定につながっていたものがあつた。バンパーでの接触は、低い位置からでないことのできないもあるので、次につなげてほしい。
所感	今年度より、日本選手権大会がラウンド制に変わり、2次ラウンドということで西日本最高峰の大会に参加させていただいた。様々なことが変化していく中で、それまでと違う大会形式、今までと違う試合の雰囲気を感じながらも、今の自分にできることを着実に積み重ねていくことを意識して臨んだ。 全国から集った仲間と一緒に、オンザコートはもちろんのこと、試合観戦、ミーティングへの参加などを通じて共に学び合うことができ、たいへん貴重な経験をさせていただいた。これをまた地元を持ち帰り、共有していきながら切磋琢磨していきたい。 今大会の開催において、多数の運営の方々のご協力、クラスファイヤーの方々との連携、そして選手とのコミュニケーションの大切さといった、繋がり大切さを改めて感じる事ができた。その中で、レフリーとしての役割を果たし、グッドゲームに向けて貢献していけるよう、今後もいっそう励んでいく覚悟である。 最後になりましたが、今大会に携わったすべての方々のたくさんの支え、心遣いに深く感謝申し上げます。私の報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

審判講習会 参加報告書

平成30年4月22日
報告者 白石 義人

この度参加しました、審判講習会について報告します。
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

講習会名 (大会名)	第46回日本車いすバスケットボール選手権大会 西日本第2次予選会
参加者 (報告者)	白石 義人 (所属カテゴリー) 社会人連盟
期 日	平成30年 4月 7日(土) から 平成30年 4月 8日(日)
会 場	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター (アミティ舞洲)
参加者	門川 浩人、加藤 昌樹、増竹 昇、福田 典子、金川 光一、田中 敏弘、立田 裕志、 祖父江 達也、今村 和成、板垣 善久、玉井 聡、辻 綾、中村 篤史、三藤 康博、 松雪 宏昭、林 真理子、三木 大助、初瀬 真由子、紙本 昌寿、網谷 昭義、光森 久敬、 川村 貴昭、白石 義人、山本 美紀、今城 千恵
報告① ゲーム①	■ゲーム 日時 4月7日(土) 1回戦 広島 Rise 対 神戸 STORKS ■割当 主審 白石 義人 (報告者) 副審1 三藤 康博 氏 (長崎・B級審判員) 副審2 山本 美紀 氏 (愛媛・B級審判員) ■プレ・ゲーム・カンファレンス 3人のプライマリー、ローテーションの確認、動き方の確認を中心に、クルーで協力して ゲーム管理をしていこうという事を話した。特に三藤さんは初めてお会いする方だったので、 雑談を交えてお互いの距離を縮めて緊張をほぐす事に努めた。 ■ミーティング 主任(立田氏)より 吹くべき人がふけていないケースが散見された。プライマリーはどうだったのか、もう一度 見直す必要がある。3人共センターの時の動きに工夫がみられず、特にクロスステップで プレーを捉える機会が全然なかった。見方、角度のつけ方もいろいろあることを知ってほしい とのお言葉をいただいた。

報告② ゲーム②	■ゲ ー ム 日時 4月7日(土) 1回戦 LAKE SHIGA 対 岡山 WBC ウィンディア ■割当 主審 立田 裕志 氏(神奈川・A級審判員) 副審1 白石 義人 (報告者) 副審2 玉井 聡 氏(石川・B級審判員) ■プレ・ゲーム・カンファレンス 自分達の役割をしっかりとこなし、選手に主導権を握らせないように審判主導でゲームをすすめていく事、ボールサイドのレフリーを孤立させないように積極的にローテーションをかける、リードは迷ったら行くという事を心がける共通意識を確認した。 ■ミーティング 主任(川村氏)より 反省で3人がそれぞれ話した感覚よりも、試合を見ている方としてはゲームとしてすごくまとまっていてよかったと思うので、もっと自信をもってほしいと話をいただいた。 自分が感じている視点と客観的に見ている視点が大幅にずれていると、変な部分にこだわったりしてしまうので、外からどの様に見られているかすり合わせる感覚をもっと養う事が重要だと感じた。
報告③ ゲーム③	■ゲ ー ム 日時 4月8日(日) 3位決定戦 富山県 WBC 対 岡山 WBC ウィンディア ■割当 主審 金川 光一 氏(富山・A級審判員) 副審1 白石 義人(報告者) 副審2 林 真理子 氏(熊本・B級審判員) ■プレ・ゲーム・カンファレンス プライマリーの確認、キープレイヤーを早く捉える事、3人の判定基準の共通意識を持つ事の確認を話し合った。 ■ミーティング 主任(立田氏)より 主審が一人で吹いているケースを、本来吹くべきプライマリーの人がどう感じていたか、もっと整理して欲しいところがたくさんあった、とのお言葉をいただいた。 自分個人としては、終盤になるにつれて存在がなくなった様な感じだったので、最後まで集中を切らさないようにすることが課題だとアドバイスをいただいた。
所感	今回初の選手権2次予選であり、どんな試合になるか楽しみにしていたが、結果的に雰囲気にもまれてしまった所があり、自分の心構えの甘さが露呈してしまったと反省する大会だった。特に最後の3位決定戦は、終盤に中心選手のファウルアウトを恐れて正しい判定をする事ができず、クルーに何度も助けてもらう事になってしまった。 真剣勝負の中では自分が予想していた展開にはならない事がバスケットにはよくあるはずなのに、どこか意地を張ってしまったところがあり、審判の役目、役割をあらためて見つめ直すきっかけになった。 今回の反省を生かし、よりよい審判員を目指して精進していきたい。

大会参加報告書

平成 3 0 年 4 月 1 5
日
報告者 今城 千恵
印

この度参加しました、大会について報告します。
なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

大会名	第 46 回日本車いすバスケットボール選手権大会西日本第 2 次予選会
参加者 (報告者)	今城 千恵 (所属カテゴリー) 東予ミニ連盟
期 日	平成 30 年 4 月 7 日 (土) から 平成 30 年 4 月 8 日 (日)
会 場	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター (アミティ舞洲)
参加者	門川浩人、加藤昌樹、増竹昇、福田典子、金川光一、田中敏弘、今村和成、祖父江達也、辻綾 三藤康弘、松雪宏昭、板垣善久、玉井聡、立田裕志、中村篤史、初瀬真由子、林真理子、 三木大助、網谷昭義、紙本昌寿、光森久敏、川村貴昭、白石義人、山本美紀、今城千恵 以上 25 名

報告 1	■ゲ ー ム 日時 4月7日(土) 第5ゲーム 17時45分～トスアップ 高知シードラゴンズ 23 対 79 佐世保WBC ■割当 主審 祖父江達也氏 副審1 松雪宏昭氏 副審2 今城千恵 主任 三藤康弘氏 ■プレ・ゲーム・カンファレンス 主審よりプライマリを守りつつ、コンタクトを取りながら、3人で仕上げていきましょう。 タップオフ後の各クルーの位置、タイムアップ、ショットクロック担当の確認(オポジット) 3Pの基本的な動きと変則的なローテーションの確認(プレイヤーが縦長く分散した時) 転倒は起こった位置により判断(リング下は即止め) ■ゲーム中 他クルーより、リード移動は行ききってよい。得点状態からみて、佐世保の悪いものを取りこぼさないように気を付ける。 ■ゲーム後(主任より) リード時のセットアップを少し内側の位置にする。 ベンチ前から始まり、見えるプレイの良し悪しにもっと気を付けた方がいい。 コート中央に集まるプレイが多く、ニューリードへは少し遅らせると良かった。 センターから吹いたリング下への笛は、セカンダリーとしていい笛だった。
報告 2	■ゲ ー ム 日時 4月8日(日) 第1ゲーム 9時30分～トスアップ 太陽の家スパークス 60 対 47 愛媛WBC ■割当 主審 三藤康弘氏 副審1 網谷昭義氏 副審2 今城 千恵 主任 辻綾氏 ■プレ・ゲーム・カンファレンス トスアップからの基本的な3人の移動、そのタイミングと位置を確認する。 タイムアップ、ショットクロック担当の確認(オポジット) プライマリエリアに責任を持ち、良いアングルでプレイを見極め、処置できるようにする。 取り上げたファールが、何であったのか、レポートに違いが無いようにする。(ホールディング、プッシング、ブロッキング) 吹けなかったで終わらない事。 ■ゲーム中 太陽の家コーチよりアピールされた3秒についてクルーではなす。 ショットクロック設定の再確認(未設定でのスタートとなったため) ■ゲーム後(主任より) 開始時のショットクロックトラブルによってか、1Pは、クルーにちぐはぐさが見えていたが、ゲームが進むにつれて、引きずらず、良くなっていったと思う。 グッドコールも見えるので、その正確さが増すようにゲームで経験を増やしていけばいい。 (主審より) 昨日主審として見た時より、思い切りの良い笛があったと思う。 (他参加者より) センター時の見るべき所のための位置、アングルの甘さがみられる。 他クルーとの協力が弱く見える時があった。

	ファールの判定で事実のみで笛にしているものがある。（成立させるためには3原則をしっかり理解する）
所感	クルーとして協力しながらも、自己アピールをして認めてもらう仲間を見ることで、自分との意識の違い、レベルの違いを感じられ、良い影響を頂きました。 自分の弱いところを強くしながら、謙虚に自己満足にならないように車いすバスケツトの理解をしっかりとしないといけないと思いました。 また、それだけで終わることの無いよう、挑戦していきたいと思います。 ありがとうございました。